

みゅーじあむ・船橋

Funabashi Historical Museum & Tobinodai Historic Site Park Museum News
Vol.13
みゅーじあむ・船橋

令和元年 10月



第13号

博物館ニュース	[2]
船橋遺跡風景今昔 3 ～飛ノ台貝塚～	[3]
文化財を守り、伝えていくために	[4-5]
博物館で学ぼう！ 2 郷土資料館の「博学連携」事業	[6-7]
インフォメーション	[8]

博物館ニュース

この項では、郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の企画展や事業について、紹介しています。
今回は、令和元年度の夏に実施した企画展の様子をお伝えします。

郷土資料館

令和元年7月9日(火)から9月8日(日)まで、企画展「二和・三咲開墾150年」を開催しました。

この企画展では、明治2年(1869)の開墾事業開始から昭和までを中心に、二和・三咲地区の歴史を紹介しました。展示室では、開墾のために移住する人々に東京府が示した「下総国牧地開墾場へ移住之者授産向大意規則」(船橋市西図書館蔵)や、三咲開墾会社の棟札(個人蔵)、三咲小学校のアルバムや二和小学校の農具(各小学校蔵)等を展示しました。

8月9日(金)には、夏休み自由研究大作戦「歴史新聞を作ろう!」を開催し、小学生を中心に8名が参加しました。また、8月24日(土)には、船橋の歴史散歩特別編「展示室から二和・三咲へ」を開催し、御滝不動尊や星影神社、三咲稻荷神社などを訪ねました。

博物館を見学した後に自分で調べたり、史跡を訪ねたりする関連イベントを重ねることによって、参加者の学びを広げることができた企画展示となりました。



展示解説の様子

飛ノ台史跡公園博物館

飛ノ台史跡公園博物館では、毎年夏休みに合わせて、皆さんが縄文文化に楽しく触れる機会を提供するために、縄文コンテポラリー展を開催してきました。

第19回を迎えた今年は、「遺跡のアート劇場 ～縄文から古代イタリアそして現代へ～」と題し、アーティストの方々や海神中学校・高根台中学校の生徒たちが、縄文文化から受けたインスピレーションを作品で表現しました。今年は国内だけでなく、古い歴史があり、数多くの古代遺跡が残るイタリアからも、^{いにしえ}古の文化に刺激を受けたイタリア人アーティストの作品が寄せられ、館内を彩りました。7月21日(日)から9月1日(日)までの会期中に、4,031名が来館しました。



正法地 健 作「船橋・縄文のフェイス(顔)」

また、アーティストの方々を講師に迎え、6日間で7種類12回のワークショップを開催しました。「粘土で作った作品を野焼きにする」「レプリカ土器を復元する」といった普段なかなかできない体験をしたり、動きや音が可愛い作品を作ったりしました。参加者だけでなく、付添いの方々も楽しんでいる様子が見られ、我々職員も嬉しくなりました。ワークショップには、延べ200名の方が参加しました。

夏休み中には、縄文コンテポラリー展以外にも、当館の職員がワークショップを15回開催し、こちらも多くの方々に楽しんでいただくことができました。また、当館で縄文時代のことを調べたり、土器の文様をスケッチしたりと、夏休みの宿題に熱心に取り組む小中学生も数多く見られました。

今年の夏も厳しい暑さが続きましたが、いよいよ過ごしやすい気候となりました。文化・芸術の秋に「郷土資料館」と「飛ノ台史跡公園博物館」をお楽しみいただければ幸いです。

船橋遺跡風景今昔 3

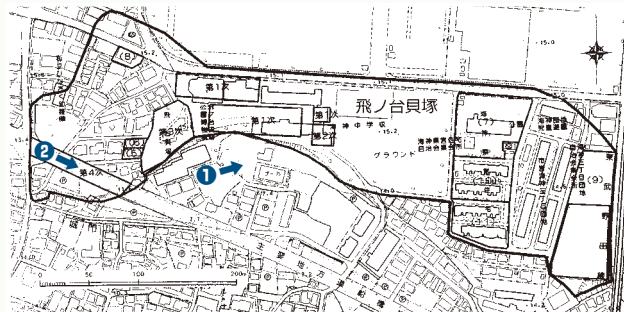
～ 飛ノ台貝塚 ～

飛ノ台貝塚のあらまし

飛ノ台貝塚は、海神中学校の敷地を中心に広がる縄文時代早期の遺跡です。昭和7年(1932)に最初の発掘が行われ、^{ろあな}炉穴(住居の外で煮炊きする調理場)が日本で最初に発見されたことで注目されました。

戦後は昭和52年(1977)から平成22年(2010)までに、11次にわたる発掘調査が行われました。多数の竪穴住居跡と炉穴、貝塚、男女合葬人骨などが発見されています。平成9年(1997)に、史跡として船橋市指定文化財に登録されました。

平成12年(2000)に、遺跡を保存した史跡公園と出土資料を展示する博物館として飛ノ台史跡公園博物館がオープンしました。



1次発掘、昭和52年(1977)の様子。海神中学校校舎の建て替えに伴って調査されました。右写真は炉穴の発掘状況。

飛ノ台貝塚周辺今昔風景 ① ② は上の地図上の位置

①



昭和52年(1977) 海神中南側の小谷低地より調査地を望む。斜面地の松並木の奥が遺跡のある台地である。



令和元年(2019) 8月の同位置。斜面地には樹木が茂り、調査地には鉄筋校舎が建つ。

②



平成2年(2000) 第4次発掘調査の様子。



令和元年(2019) 8月の同位置。市道が通る。

参考文献『飛ノ台貝塚』(船橋市教育委員会、1978年)『飛ノ台貝塚第4次発掘調査報告書』(船橋市教育委員会、1999年)
『飛ノ台貝塚第1・2次発掘調査報告書』(船橋市教育委員会、2001年) (Y.M)

文化財を守り、伝えていくために

はじめに

時は令和、改元という歴史的な節目を迎えたばかりですが、平成の大修理、さらには昭和の大修理といった言葉を耳にしたり、修理後初の一般公開に足を運んだりしたことはないでしょうか。本稿では、筆者が修理工房などで経験してきたことに基づき、文化財の修理についてご紹介します。

文化財修理の実際－現状維持の重要性

社寺などの建造物、仏像、書画などの有形文化財は、古来より周期的に修理が行われ、先人たちにより現在まで大切に守り伝えられてきました。

博物館で展示されている資料のなかにも、今日にいたるまでに何度か修理されたものも少なくありません。じっくり鑑賞していると、欠損部分などが補われた修理の跡が見えてくるかもしれません。

このようにして、先人から受け継がれた大切な文化財を、次の世代へ受け渡し未来につなげると同時に、広く活用し公開していくことで、子どもから大人まで親しんでもらうことを私たちは目指しています。そのためには、文化財の保存環境の整備につとめ、どのような状態であるかを点検し、その中で必要性が確認された場合には、専門家の手により修理を行います。

日本の書画を例にあげましょう。修理は、暫定的なものから本格的なものまで、現状維持の考えに基づき行われます。修理をするのに現状維持と聞くと、一瞬相反するような印象を受けますが、現状維持とは、作品が制作された時から経年変化した現在の状態を、これ以上損なわないように維持することを目的としています。一昔前までの修理では、時として見栄えを重視し、絵の具層の剥落部分に新たに色を塗り直したり、欠損部分に加筆をしたり、作品の制作時の姿を取り戻そうとした修理も行われていました。そのため、修理後は見違えるような姿となりますが、手が加えられたことでオリジナルのもつ本来の力が失われ、またその後の経年変化により、オリジナルと修理による後補との間には不協和音が

生じます。そこで、過去に不適切に修理され、本来の姿を乱している場合には、作品への負担を最小限におさえた範囲での修理も行われます。

修理の流れは、修理前の調査・記録→修理・記録→修理後の記録・報告の順に進みます。修理前に行われる調査および修理中の記録は、普段は知ることができない作品の素材、内部の構造、時には紙背から作品の変遷などの情報を得られる機会になるため、たいへん重要な資料となります。また、科学技術による赤外線撮影による下書き線などの確認や、退色してしまった絵の具層の特定などの調査も行われることがあります。修理後に報告書などの記録を残すことは、将来行われるであろう次世代の修理に役立ちます。

修理は、専門家の手によって行われますが、専門家は、継承された伝統的な技術とともに、現代科学の発達により可能になった技術を用いることもあります。また、技術とともに、修理を行う際に不可欠なものとして伝統材料があります。たとえば、書画の作品のおもな基底材として和紙と絵絹があります。和紙は楮、雁皮、三桝などの様々な植物繊維からできており、産地や製造方法によっても風合いなどが異なってきます。修理に和紙を用いることはたいへん重要で、作品を補修するだけでなく、作品の裏面に貼って補強する裏打紙としても使われます。それぞれの作品に合わせ、和紙の材質や厚みなどを



文化財修理に使用される代表的な接着剤（生麩糊）
右→原料（小麦粉澱粉） 左→水で炊いて作った糊
用途にあわせ、水で薄めて糊の濃度を変えながら使用する。

考慮し用いられます。また、絵絹に描かれている作品の欠損部分を補修する際は、それぞれの作品の織にあわせ、可能な範囲で劣化した絹を用います。経年変化した脆弱な絹の作品に新しい絹を用いることは、作品そのものを傷めることになります。和紙や絵絹をはじめとした修理に不可欠な伝統材料ですが、近年の後継者不足などにより、入手が難しくなっています。

おわりに

修理は、伝統技術や材料を保持しつつも、現代技

術も取り込みながら進化しています。まもなく、私たちは令和の修理に遭遇するでしょう。作品鑑賞とあわせて、修理の痕跡を通して作品の伝来に着目してみるのも、より一層文化財に親しみがわくきっかけになるかもしれません。(S.H)

参考文献—興味のある方はぜひ読んでみてください。

東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学保存修復
日本画研究室『日本絵画の謎を解く』（東京藝術大学
出版会、2007年）

文化財保存修復学会『文化財の保存と修復』シリーズ(ク
パプロ、1999年 - 2013年)

に あしうはく 平成30年度に丹羽正伯位牌を修理しました



台座の脚部が割れて直立できず、表面の漆が所々剥がれています。



脚部の割れを接合し、漆が剥がれそうな箇所を保存処理剤で保護しました。

「現状維持」の考えに基づいて、台座の脚部の割れを接合しました。また、漆がこれ以上剥がれないように注射器で保存処理剤を注入しました。一見してすぐにわかるような修理ではありませんが、資料の劣化を防ぐための大切な修理です。

所 蔵：船橋市郷土資料館

写真提供：(有)武蔵野文化財修復研究所

丹羽正伯とは

伊勢国松坂（現三重県松阪市）出身の医師です。享保7年（1722）、8代将軍徳川吉宗の時代に、滝台野（現船橋市薬円台・薬園台町）30万坪に薬草園を開くよう命じられました。丹羽正伯は江戸の日本橋（現東京都中央区）の薬種問屋・桐山太右衛門とともに任務にあたりましたが、薬草園の経営は成功せず、のちに廃止されて薬園台新田となりました。

郷土資料館の「博学連携」事業

～大学とのコラボ展示～

郷土資料館では、平成30年度から、ミュージアム・アソシエイツ（略称MA：日本大学理工学部学芸員課程で学ぶ学芸員の卵の学生団体）と協力して展示活動を行っています。ここでは、郷土資料館で行っている博学連携のうち、大学との連携事業について紹介していきます。

＝【博学連携とは】＝

博学連携とは、博物館と学校が協力し合いながら行う教育活動のことを言います。片方からの一方的な協力ではなく、博物館の職員と学校の教員がそれぞれ協力し合うことで、子どもの学びを深めていくという取り組みです。

一般的に博学連携と言うと、博物館と小学校・中学校などが協力し合って子どもの教育にあたるというイメージが強いと思いますが、博物館と大学が協力することも博学連携の一つです。

＝【郷土資料館と日本大学理工学部】＝

郷土資料館から約2km離れたところにある日本大学理工学部船橋キャンパス（船橋市習志野台7丁目）には、学芸員資格を取得するための学芸員課程が設けられています。学芸員課程の講座では、建築学科や物理学科、航空宇宙工学科など、多種多様な学科の学生が集まって、国家資格である学芸員資格の取得を目指しています。また、船橋キャンパスには科学技術史料センター（CSTミュージアム）があり、学生たちは解説員や解説パネル作成などのボランティアを日頃から行っていました。

立地が近く、何より学芸員課程で学ぶ学生と担当教員の熱意によって、平成30年度からの連携事業が実現しました。

＝【平成30年度の連携事業】＝

平成30年6月23日(出)から11月17日(出)まで、協力展示「地震・台風 備えあれば憂いなし」を開催しました。

内容は、郷土資料館を中心とした地形模型（縮尺：2万分の1）や、砂と水が入ったビンをひっくり返して液状化現象の仕組みを知る装置など、「見てわかる」「体験できる」展示です。しかし、体験できるという展示の性質上、会期中に故障してしまうことが多く、そのたびに学生が来て修理しました。来館者に体験してもらっても壊れないような強度を持たせることが課題となりました。



平成30年度の展示の様子
手前にあるのは手回し発電機

8月7日(火)には防災ワークショップを開催し、小学生を中心に合計47人が参加しました。「液状化現象のしくみを知ろう！」では、学生たちが実験装置を使って液状化現象についてわかりやすく説明しました。「お家の防災マップづくり」では、学生たちが参加者の自宅周辺の地図をその場でプリントし、一緒に自宅周辺の危険なエリアや避難場所をチェックしたり、学校から自宅へ帰る経路や避難場所までのルートを地図に描いたりして、自分だけの防災マップを作りました。

【令和元年度の連携事業】

令和元年7月6日(土)から10月25日(金)まで、体験型展示「跳ねて 回して 作る 電気」を第1展示室の近現代コーナーで開催しています。

船橋市域の送電線を地図に落とした模型や、振動力発電を体験できる装置など、昨年度と同じく「見てわかる」「体験できる」展示手法をとっています。



令和元年度の展示の様子
写真右奥にあるのは太陽光発電の装置

8月15日(土)にはワークショップを開催し、65名が参加しました。10円玉と1円玉を交互に重ねて電池を作る「110円電池を作ろう」や、叩いた振動によって電気を作る「たたくと光る？」など、身近なものや現象を通して電気の仕組みを学ぶことができました。



「カミナリクイズ」に挑戦！

【おわりに】

大学の理工学部と、船橋市の考古・歴史・民俗などの資料を扱う郷土資料館では、一見分野が異なるようですが、お互いに協力できることはたくさんあります。

郷土資料館の周辺には、自然科学に関する展示や実験をする公共施設がありません。理工学部の学生と連携することによって、自然科学に関する展示やワークショップを行うことは、郷土資料館にとって大きな意義があります。また、考古・歴史・民俗などを専門とする郷土資料館の職員には思いつけない、理工学部の学生ならではの展示内容や展示方法に触れることによって、私たち職員も刺激を受けます。



令和元年度 展示設営の様子

学生にとっては、展示やギャラリートークを通じて、普段の生活では接することのない「郷土資料館の来館者」に対して研究成果をわかりやすく伝える経験を積むことができます。

さらに、毎年異なる学生が展示を行うことで、郷土資料館へ何度も足を運んでくれている来館者にも、新しい学びを提供することができます。

大学と博物館の連携は、双方にとってだけでなく、来館者にとってもメリットがある事業といえます。今後も、郷土資料館の博学連携事業にご注目ください。

(S.Y)

郷土資料館

※薬円台公園内のSL運転席は、毎週土曜日・日曜日・祝日(年末年始・雨天時を除く)の午前10時～午後4時に公開しています。

【令和2年3月までの行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
11月1日(金)～12月15日(日)	企画展「船橋と新京成」	郷土資料館 3階 第2展示室
11月17日(日)	文化講演会「前方後円墳とは何かー百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録の意義と東国の古墳文化」 講師：若狭 徹(明治大学准教授)	薬円台公民館 (船橋市薬円台5-18-1) ※薬円台公民館と共催
2月1日(土)～5月10日(日)	企画展「船橋の「これ、知りたい!」」 ※くらしの道具も展示予定	郷土資料館 3階 第2展示室

いずれも、詳細は『広報ふなばし』でお知らせします。
都合により、日程・内容が変更になる場合があります。



協力：
船橋市華道連盟

飛ノ台史跡公園博物館

※飛ノ台史跡公園博物館では、毎週土曜日・日曜日・祝日の他、小・中学校の夏休み・冬休み・春休み期間中などに、ワークショップを実施しています。

【令和2年3月までの行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
11月2日(土)～12月15日(日)	千葉県北西部地区文化財展「海と生きる」	飛ノ台史跡公園博物館
11月6日(水)、11月13日(水)、11月27日(水)	縄文大学「縄文人の食」	市民文化創造館(フェイス6階きららホール)
11月16日(土)	バスで訪ねる博物館見学	関宿城博物館、現代産業科学館
12月8日(日)	歌で綴ろう船橋のあゆみコンサート～縄文編～	市民文化創造館(フェイス6階きららホール)
1月11日(土)～2月9日(日)	くらしの道具展 一 道具が語るくらしの歴史 一	飛ノ台史跡公園博物館
1月11日(土)、1月18日(土)、1月25日(土)	考古学講座	海神公民館(船橋市海神6-3-36) ※海神公民館と共催
2月23日(日)～3月8日(日)	海神中学校・高根台中学校・飛ノ台史跡公園博物館合同展	飛ノ台史跡公園博物館

いずれも、詳細は『広報ふなばし』でお知らせします。都合により、日程・内容が変更になる場合があります。

郷土資料館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
住 所 船橋市薬円台4-25-19
電 話 047-465-9680
F A X 047-467-1399
Eメール kyodo@city.funabashi.lg.jp

交通案内

新京成線 習志野駅下車徒歩10分
JR 津田沼駅北口から
船橋新京成バス・ちばレインボーバスで
「郷土資料館」下車徒歩2分



飛ノ台史跡公園博物館

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入 館 料 一般110円(団体20名以上70円)
児童生徒50円(団体20名以上30円)
市内在住中学生以下 無料
※令和元年10月1日から消費税が変更となることに伴い、入館料が一般個人110円になりました。
住 所 船橋市海神4-27-2
電 話 047-495-1325
F A X 047-435-7450
Eメール tobinodai@city.funabashi.lg.jp

交通案内

東武アーバンパークライン
新船橋駅下車徒歩8分
京成本線 海神駅下車徒歩15分
東葉高速線 東海神駅下車徒歩12分
船橋新京成バス
JR 船橋駅北口から建鉄循環
「海神中学校前」下車徒歩1分



ご利用案内・交通案内

休館日カレンダー

10月	11月	12月	令和2年 1月	2月	3月
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

□ は郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館休館日 ※都合により、休館日が変更になる場合があります。